

事故防止コンサルタントの活動日誌

事故防止に関する最近の教育コンテンツのご紹介

SOMPOリスクマネジメント株式会社
シニアプロフェッショナル

落合 律

はじめに

コロナ禍を契機とした「非接触」「遠隔」が求められるようになったニューノーマルや、働き方改革による「労働時間の短縮」は、従来の労働環境に大きな影響を与えました。これに伴い、自動車事故防止教育（以下、教育という）も変化しました。従来は、大会議室に従業員が集まり、講師が交通安全に関して説明する集合型の事故防止講習会スタイルが主流でした。それが、WEB講習会、eラーニング、その他映像を用いた事故防止教育ツールの活用な

ど個人で完結する教育スタイルへと内容が変化しています。そこで、今回は最新の事故防止に関する教育スタイルやコンテンツを紹介いたしますのでよろしく願います。

交通事故防止に関するWEB講習会

働き方の多様化の実現や移動にわたる時間短縮、コスト削減など労働生産性の改善に結びつくため、本業においてWEB会議やリモートワークを行う企業が増えています。また、これに伴い交通事故防止に関するWEB講習会も増えてきています。一方で、次のような課題もあり、運用に

は十分な準備とフォローが必要です。

- ・WEB講習会の場合、参加者の映像を非表示にしていると、きちんと講習会に参加しているかがわからない
- ・WEB講習会の場合、講師からの一方的な講話となるので、受講者が退屈になり、参加意識が低くなる傾向がある
- ・インターネット環境で、通信トラブルが発生する可能性がある

これらの課題解決のために以下のことが考えられます。

- ・WEB講習会の途中で何回か参加者に問いかけ、その質問に答えてもらう

・WEB会議システムで利用できるグループワークを取り入れる

・WEB講習会終了後に、参加していないと正解できない内容のクイズを実施する

eラーニングの活用

限られた短い時間で生産性を維持・向上させるためには、教育も合理的・効率的に実施する必要があります。そのため、教育を受講するための利便性を実現し、事故防止に関

する幅広いテーマについて学べるeラーニングを活用される職場が増えています。以下、その内容について紹介します。

1 eラーニングを活用する理由

- ・ウイルス性感冒防止のために三密（密閉・密集・密接）を回避しながら研修をし

たい

- ・本社以外に複数の拠点があり、教育のため管理者やドライバーを一堂に集めることが難しい
- ・人事異動や従業員の入れ替わりが多く、都度、マンツーマンで教育を実施するのが大変
- ・講習会の当日に、参加できなかった従業員への代替として

2 eラーニングを実施するメリット

(1) いつでも、どこでも利用できる

パソコンだけでなく、スマホ、タブレット等から所定のURLにアクセスするだけで、いつでも学習を開始することができます。所要時間は通常、1コースにつき最大10分程度なので、電車通勤時等の隙間時間も利用できるなど、いつでも、どこでも手軽に安全運転知識を学習することができます。

(2) 繰り返し利用できる

利用期間内であれば、通常、何度でも同テーマに関し学習可能です。そのため、受講者それぞれの進捗に合わせて繰り返し学習でき、不安な点などについて、知識を確実なもの

通信機能搭載型ドライブレコーダー

にすることが出来ます。

(3) 管理がしやすい

実施状況をサーバー上でデータ管理できるので、学習履歴の管理などがしやすくなります。

ドライブレコーダーを装着し、車両周辺の光景を記録するだけでは、事故発生時の状況確認はできません。事故防止効果は期待できません。ドライブレコーダーを装着して事故防止を図るのであれば、例えば、急ブレーキや速度超過などの危険挙動を記録し、その内容を管理者、運転者双方にフィードバックするなどの機能があるものが求められます。最近では、ICT（情報通信技術）を活用し、具体的かつ持続的な事故防止活動を支援するドライブレコーダーがありますので、その一例を紹介します。

1 運転状況の見える化

通信機能付きのドライブレコーダーにより、ドライバー・管理者の双方が客観的な画像や、定量的な



イラスト・本田敦子

データにより運転状況の安全性を把握することが出来ます。

このほかにも、交通法規違反を抑止するため、「赤・黄信号通過」「一時停止不停止」をドラレコ映像と地図情報から自動抽出し、レポートするサービスもあります。

2 事故防止につながる効果的なデータ還元

ドライバーの運転状況を管理者用WEBサイトに集約し、定期的に通知します。そのため、指導が必要なドライバーを特定し、実効性のある指導をすることや、

自社の安全運転状況を容易に把握することが出来ます。

ただし、このような機械を装着しても事故削減に効果が出る場合もあれば、あまり出ない場合もあります。特に、効果が出ない場合には、筆者に相談がきます。多くの事例を通じ

てわかったことは「管理者の運転者への日々の関わりの有無」が大きな影響を与えるということです。効果が出ている職場の多くは管理者が熱心に日々、運転者とドライブレコーダーの映像や注意メッセージを用いて管理者と運転者のコミュニケーションを図っています。ヒューマンエラーによる事故防止には、単に機械任せにするのではなく、機械を事故防止に係るコミュニケーションのツールとして有効活用し、場合にに応じて注意喚起をしたり、危険予測をしたりする必要性を再認識してもらうなどが重要です。

オリジナル事故防止動画の制作

筆者がコンサルティングのため現場に行くと、多くの管理者はとても忙しくされています。管理者に事故防止活動に関するヒアリングをするなど、「運行管理、顧客対応、事故処理など、日々処理しなければならぬ業務に忙殺されて、十分な管理ができない」との声をよく聞きます。

しかし、管理ができない要因は時

間的问题というよりは、「管理のやり方がわからない」というケースが大半のように思えます。そのため、「管理のやり方」を習得いただくことが、管理者の生産性を上げ、事故防止活動を効果的にする上で必要不可欠のようです。そのために必要なツールは、管理者の事故防止に関する「指導マニュアル」です。特に運転実技指導を実施する際のやり方などは、職場ごとのルールや求めるレベルに応じて制作したオリジナル動画がわかりやすいようです。

おわりに

事故防止を実現するために、教育は継続して行う必要があります。しかし、同じやり方ばかりではマンネリ化して効果が見込めなくなります。そのため時代の流れに合わせ、進化させていかなければなりません。今回は、最近の効果的な教育法について紹介しました。職場の事故防止活動にお役に立てれば幸いです。

(おちあい・りつ)

